

ひょうご 男女共同参画ニュース



11/18

第33回ひょうご女性未来会議 in やぶ・縹賞授賞式

さまざまな分野で活躍する兵庫の女性たちがネットワークを広げ、男女共同参画社会の実現をめざす「ひょうご女性未来会議」が11月18日(土)、但馬長寿の郷郷ホールで開催された。今回のテーマは「母ちゃんが支える『やぶぐらし』～清く・いそしく・美しく～」。

同会議会員や、兵庫県金澤副知事、養父市広瀬市長などの応援団約140名が集いました。次代を担う女性の活動を讃え、応援する「ひょうご女性未来・縹賞」の表彰式では、1ターン後、農業を営む田村麻里奈さん(養父市)、地域の小



児医療の維持や健康づくりの発展に貢献された富永なおみさん(西脇市)、酪農経営に携わり酪農への理解を広げる活動を行う山根優さん(養父市)の3名が受賞されました。

同会議清原桂子代表、金澤副知事・神戸新聞社の面出取締役がそれぞれ表彰状と副賞を贈呈。受賞者一人ひとりが喜びを語りました。

事例発表会では「こうめや」の大封香代子さんをコーディネーターに、「わはは牧場」の上垣美由紀さん、「出合校区協議会」西谷初恵さん、「わくわく食農くらぶ」の荒木奈見さんが、楽しみながら農業に取り組むコツや、子ども達に地元の食文化を伝えるキッズキッチン等、地域での取り組みを分かりやすく紹介し、養父の魅力について語り合いました。



(問) 県立男女共同参画センター 078-360-8550

11/28

働く女性のためのステップアップセミナー

女性社員がイキイキ働くキャリアとネットワークづくり

～仕事を続けるために多様な働き方を実践する先輩に聞く～

女性活躍推進のキーポイントは「キャリアとネットワークづくり」。このことをテーマに当センターの女性活躍推進専門員(※)が企画したステップアップセミナーを11月28日に開催し、約60名の働く女性が参加しました。

女性の就業継続には、自身の長期的なキャリアとともに目標となるロールモデルやネットワークが重要ですが、特に中小企業では社内で見つけることは困難です。今回のセミナーは企業の枠を超えて交流し、女性社員のキャリアとネットワークづくりを図るものです。

瀧井講師によるライフイベントを乗り越えるポイントの解説に続き、女性活躍推進専門員が訪問企業で出会ったロールモデル4名から、多様な働き方について会場の質問に答える形式でお話しいただきました。

女性の昇進、柔軟な働き方、社内の女性グループづくりはとても興味深く「悩んでいるのは私だけではなかった」「ブレることなく、しっかり意思を持って働き続けようと思った」などと共感の輪が広がりました。



※女性活躍推進専門員は、県内の女性活躍を推進するために企業訪問や講師等派遣事業(無料)を提案、企画しています。ご相談は女性活躍推進センターまで 電話：078-360-8550

(問) 県立男女共同参画センター 078-360-8550



関係事業の報告

11/17

ひょうご仕事と生活センター ワーク・ライフ・バランスフェスタ開催 ～働き方改革でワーク・ライフ・バランスを実現～

県公館で開催されたフェスタでは、初めに、金澤副知事が「多様な人材をいかに効率よく活躍させるかが、今後の経済の活力を保つために重要」と挨拶。



その後、先進的な取組で成果をあげている10の企業・団体が「ひょうご仕事と生活のバランス

企業」として表彰されました。また同センターが募集したワーク・ライフ・バランス キャッチフレーズの入賞4作品の表彰式も行われました。

特別講演では「働き方改革に必要な『職場の結束力』とは何か?」と題し、荻阪哲雄さん(多摩大学客員教授)が講演。

次いで、「私たちはいかにして『働き方改革』を進めてきたか」と題してトークセッションが行われ、参加者は興味深く聞き入っていました。

☆表彰企業の取組については、ひょうご仕事と生活センターのHPに掲載する予定です。

ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰受賞団体 (50音順)

- ・医療法人社団栄宏会 栄宏会小野病院
- ・株式会社日本ビジネスデータプロセッシングセンター
- ・サントクコンピュータサービス株式会社
- ・バンドー化学株式会社
- ・特定医療法人社団仙齡会 いなみ野病院
- ・株式会社ベネスト
- ・株式会社土肥富
- ・株式会社夢工房
- ・日本ジャイアントタイヤ株式会社
- ・株式会社ワイドソフトデザイン

ワーク・ライフ・バランスキャッチフレーズ グランプリ

変えよう働き方 認めよう多様性 笑顔が広がる ワーク・ライフ・バランス

(問) 県男女家庭課 078-362-3160

2017年版ジェンダーギャップ指数公表

世界経済フォーラムは11月2日、「世界ジェンダー・ギャップ報告書 2017」の中で各国の男女格差の大きさを順位付けした、2017年版「ジェンダー・ギャップ指数」を公表しました。

指数は、「経済活動への参加と機会」(経済参画)、「政治への参加と権限」(政治参画)、「教育の到達度」(教育)、「健康と生存率」(健康)の4分野の14項目における男女平等の度合いにより順位を決めます。

数が「1」に近づくほど平等で、遠ざかるほど格差が開いていると評価します。日本は過去最低だった昨年の111位からさらに3つ後退し、144カ国中114位となっています。読み書き能力、初等教育、中等教育(中学校・高校)、健康と生命の分野における順位は1位であるものの、労働賃金、政治家・経営管理職、教授・専門職、高等教育(大学・大学院)、国会議員数における男女間の差が大きいことが影響しました。

男女平等ランキング(主な国の抜粋)

前年	今年	国名
1	→ 1	アイスランド
3	↑ 2	ノルウェー
2	↓ 3	フィンランド
5	↑ 4	ルワンダ
4	↓ 5	スウェーデン
...
45	↓ 49	米国
...
99	↓ 100	中国
...
111	↓ 114	日本
...
116	↓ 118	韓国
...
144	→ 144	イエメン

(問) 県男女家庭課 078-362-3160

10/30、31、11/1、2、6

イーブン面接会ウィークを開催

10月30日(月)から5日間、県立男女共同参画センターで、出産・子育て等で離職した方への再就職支援の強化を図るために、ハローワーク神戸他と共催により開催。一定期間にわたって今回のような面接会を開くのは初めての試みです。

仕事と子育てを両立しやすい条件の求人を中心に、事務・販売・軽作業等の職種の合計36事業所200人を越える求人があり、82名の求職者が参加しました。

参加者の中には複数の事業所の面接に臨む方もあり、会場には熱気と緊張した空気が張り詰めていました。

当センターでは、子ども連れの方をはじめ、女性の方が利用しやすい雰囲気「ハローワーク相談窓口」を開設しており、今後も再就職支援に力を入れていきます。



ハローワーク相談窓口

(問) 県立男女共同参画センター 078-360-8550

男女共同参画推進員地域ブロック事業紹介



県内市町・地域・企業の取り組み

但馬

11月11日(土)、12日(日)に全但バス但馬ドームで開催された「但馬まるごと感動市」に今年もPRブースを出展。

但馬地域の男女共同参画推進員の活動状況の展示とアンケート調査を行いました。



今年は新たな試みとして、模擬「ワールドカフェ」(*)を実施。女性議員が少ないことや子育て・介護の支援、テレワーク等について話し合いをしていただきました。

当日いただいた地域の方々のご意見やアンケートの結果は、今後の事業展開を検討するうえで活かしていくこととしています。



なお、12月23日(土・祝)には、豊岡市民プラザ(アイティ7階)で開催される、がんばる女性のPRイベント「トヨタカ・ウーマンチャレンジマルシェ」にパネル展示を出展します。ご参加お待ちしております。

※ワールドカフェ…カフェのようなリラックスできる雰囲気の中で、メンバーの組合せを変えながら、4～6人の少人数で話し合いを続けることにより、深い相互理解や、新しい知識を生み出す話し合いの手法

(問) 県立男女共同参画センター 078-360-8550

三木市
11/22

弁護士による法律セミナー 「女性に対する暴力について ～刑法から考える～」

三木市では、毎年11月に弁護士による法律セミナーを開催しています。今年度は「女性に対する暴力について～刑法から考える～」をテーマに奥見はじめ弁護士を講師に迎え、20名の方が参加。主に110年ぶりに改正された性犯罪の厳罰化について学びました。

具体的には、「強姦罪」から「強制性交等罪」に名称が改められ、被害者の性別を問わなくなったこと、法定刑が5年以上の有期懲役に引き上げられたこと、「監護者わいせつ罪及び監護者性交等罪」が新設されたこと、性犯罪が非親告罪化したこと等について詳しく学びました。

また、暴行・脅迫要件が緩和、廃止されなかったことや性交同意年齢の引上げ等の課題が残っていることのほか、平成26年1月の「DV防止法」、平成29年6月の「ストーカー規制法」の改正点についても説明していただき、大変学ぶことの多いセミナーとなりました。



(問) 三木市男女共同参画センター 0794-89-2331

11/15

平成29年度ひょうご男女共同参画推進員研修開催

地域、企業・労働組合の男女共同参画推進員が、活動するうえで必要となる知識やスキルを習得する目的で開催し、61名が参加。

今回は「企画力を高める～男女共同参画の視点をもった企画の立て方～」をテーマにNPO法人SEAN理事長の小川真知子さんを講師にお迎えしました。

「当てる企画の三原則は、自分がやってみて面白いこと、社会が求めていること、一緒にやる仲間が3人いること」で、「企画のタネは、普段から『ジェンダー眼鏡』の視点を意識し、ノートを作る、書く(企画の言語化)、話す(人に伝える)ことにより見つけることができる」と説明。さらに、企画の大前提として、「男女共同参画社会の実現+エンパワメント(参加者の内なる力を引き出す)」をめざす講座であることが重要とされました。

次に、企画書の書き



方の基本は企画の5要素(目的・対象・成果・概要・収支)を明確に記載し、何が課題で、どう改善しようとしているかをA4用紙1枚に簡潔にまとめることと話されました。続いて、伝えたい相手の心に届くチラシの基本を過去の失敗例等で解説。

後半は、企画立案とチラシ作成のグループワークを実施。限られた時間でしたが、活発に意見交換し、子育て中のパパのための講座やワークライフバランスをめざす社内研修等の企画の発表がありました。講師からは「どの企画もどこに助成金を申請するか、誰に来てほしいか等を明確にすると実現可能性が高まる。自分が面白いと思う企画を進めてもらいたい」とエールが送られました。

参加者からは、「分かりやすい講義だった」「原点に返ることができてよかった」「グループ討議でとても良い内容で話し合えた」「今後に向けての良い刺激になった」等の声が寄せられました。



(問) 県立男女共同参画センター 078-360-8550

